I 研究主題

豊かな表現力を身につけ、主体的に学び合う子どもの育成 ~「比較すること」を取り入れた学習指導をとおして~

Ⅱ 主題設定の理由

近年、国際化、情報化、高齢化、少子化、価値観の多様化など、子どもたちを取り巻く社会や環境は急速な変化を遂げている。物質的な豊かさや便利さの一方、人間関係の希薄化やコミュニケーションの欠如により、いじめや不登校など様々な問題が生じている。家庭内の会話の減少や間接体験・疑似体験の増加で、自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりする力や人間関係を築いていく力を身に付けにくくなっていると言われている。したがって学校の教育現場で、「自ら考えたことを豊かに表現し、他者と相互に考えることができる力」を育成する必要があると考える。また、急速に変化する社会の中では、「他者と共に問題を解決しようとする力」を育成することも必要である。

新学習指導要領においては、「生きる力」を育成することを目標に、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」を基盤とした「思考力・判断力・表現力等の育成」「学習意欲の向上や学習習慣の確立」が重要視されている。体験的な学習や問題解決的な学習がさらに重視され、他者とコミュニケーションを図りながら、共に問題を解決しようとする力を育成することが重要となっている。そのためには、「豊かな表現力」や「主体的な学び合い」を高める実践を重ねることが必要だと考える。

申間市は「徹底した学力向上」と「地域に貢献できる人材の育成」を目指し、昨年度から小中高一貫教育をスタートさせ、小・中・高等学校が連携を図りながら、本市の教育課題の解決に取り組んでいるところである。しかし、実態調査により、児童生徒の表現意欲は高いが、技能が低いという問題があることがわかった。教師も児童生徒の表現技能については、十分身についていないという見方をしている。「表現したい」という意欲はあっても、伝える技能が伴っていないので、自分の考えを相手に伝えることができず、学び合いが充実していないと考えられる。そして、教師自身も児童生徒の表現技能を高める手立てを十分理解していないという現状もうかがえる。教師が表現技能を高める手立てを理解し、指導することで、児童生徒に自ら考えたことを豊かに表現し、他者と相互に考えることができる力を身に付けさせることができると思われる。そのことで、児童生徒は、他者と共に問題を解決することができ、急激に変化する社会の中で、主体的・創造的に生きていくことができると考える。

そこで、これらの社会的な背景や児童生徒、教師の実態を受け、研究主題を「豊かな表現力を身に付け、主体的に学び合う子どもの育成」と設定し、研究を進めることにした。

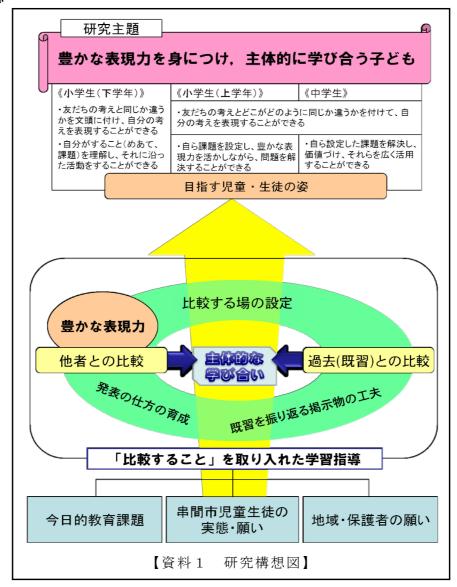
Ⅲ 研究の目標

子どもが豊かに自分の考えを表現し、主体的に学び合うことができる授業の在り方を実践的に 究明する。

IV 研究仮説

各教科、総合的な学習の時間、道徳、特別活動の時間において、「比較する」ことを取り入れた問題解決的な学習指導や話合い活動を活性化させる指導方法を工夫すれば、豊かな表現力を身に付け、主体的に学び合う子どもを育成することができるであろう。

V 研究構想



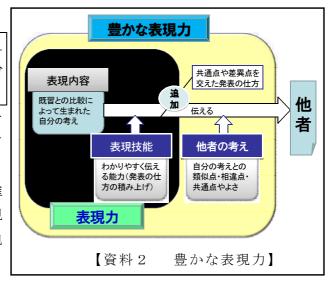
VI 研究内容

1 主題の意味

(1)「豊かな表現力」とは

相手の考えを正確に理解し、その考え に関連させながら自分の考えを相手に分 かりやすく伝える能力

表現力とは、一般的に「自分の考えをわかりやすく相手に伝える能力」として解される。つまり、「表現力を身に付ける」とは、「自分の考え (表現内容)」を明確にもち、「わかりやすく伝える能力 (表現技能)」を使って話したり書いたりし、他者に伝えることができるようになることである。



本研究における「豊か」とは、他者と関連させることである。つまり、「豊かな表現力」とは、基礎・基本の内容をもとにしながら自分と他者との考えを関連させて構築した「表現内容」を、他者の考えとの共通点や差異点を交えながら伝えるという「表現技能」を使って話したり書いたりする力のことである。

(2) 「主体的な学び合い」とは

問題解決に至るまでの過程を児童生徒が自分たちの力で進めるという学習活動

問題解決に至るまでの過程を以下のように整理する。

課題をつかむ	これまでにもっている知識や経験と新たな問題事象との違いから、「こ
	れはどうなっているのだろう」「こうしたらどうなるのだろう」といった
	問題意識や興味・関心をもち、これまでとの共通点から「こうすればでき
	るのではないか」という見通しをもつ
課題を追究する	見通したことをもとに、問題事象にはたらきかけていくことで、自己解
	決をする
他者と比べ深める	自己解決したことを、「豊かな表現力」を活かして他者と話し合い、考
	えを深め合う
価値づける	自分たちで解決し、できた考えを一般化する

以上の4つの過程を、児童生徒が自分たちの力で進めていく活動のことを「主体的な学び合い」と定義し、その姿を目指して研究を進めていく。

2 『「比較する」ことを取り入れた学習指導』についての基本的な考え方

(1)『「比較する」ことを取り入れた学習指導』に取り組む意味

「比較する」とはきわめて基本的な知的作業である。2つ以上のことについて共通点と 差異点を論じることである。さらには、どのような類似点と差異点がなぜ生じるのかを論 じ、知識を一般化していくことでもある。

子どもたちが表現する内容は、ほぼすべてが、何かと何かを比較してつくり上げられたものである。「ひらめく」ということも、過去の様々な事象を、今起こっている問題と比較し、その過去の事象で使えそうなことをつなぎ合わせ、解決方法を見つけ出すという活動である。

したがって、比較する事象を、児童生徒が明確につかむことができれば、何を考えれば よいのかがはっきりし、どのように表現するかもわかると考える。そこで、「比較する」 というスキルを児童生徒に身に付けさせるために、「比較する」ことを取り入れた学習指 導についての研究に取り組んでいく。

(2)『「比較する」ことを取り入れた学習指導』をつくるための視点

学習で行う「比較」には大きく分けて、2種類ある。過去の経験(既習)との比較と、他者の考えとの比較である。2つの比較を、学習過程に取り入れながら、学習指導を行っていく。

ア 過去との比較

既習や過去に経験したことのあることと、今の学習問題や現在の自分とを比較することである。この比較を行うことで、課題をとらえたり、見通しを立てたり、価値づけたりすることが可能になると考える。

イ 他者との比較

他の考えと自分の考えとを比較することで、考えを深めたり、多様な見方・考え方を 育てたりすることができると考える。さらには、自分の考えを表現する際、他者の考え との関連も発言させることで、学習が深まると考える。

3 よりよく「比較する」ための指導の工夫

(1)「比較する」場を授業の中に設定する

1単位時間、1単元の「導入」「展開」「終末」の各段階において「比較する」場を計画的に設定していくことで、課題をとらえたり、見通しを立てたり、自分の考えを深めたり、価値付けたりすることが可能になる。

「導入」の段階では、過去に経験したことと新しく出会った事象とを比較し、課題をとらえたり見通しを立てたりすることができる。

「展開」の段階では、見通したことと調べたこととを比較したり、自分の考えと友達の 考えを比較したりして理解を深めることができる。

「終末」の段階では、過去に獲得した価値と新たに学習した内容とを比較し、新たな価値付けを行うことができる。

各段階で比較させる際には、指導者が何と何を比較させるのかを明確にしておくことが 大切である。

《「比較する」ことを設定した一般的な学習指導過程》

段階		主な学習活動		「比較すること」を取り	入れた学習指導
導入	1	本時の学習課題をつかむ。	0	既習事項 (自分の経験)	と新しく出会っ
	2	本時学習の見通しをもつ。	た	事象とを比較し、課題を	とつかませたり、見
			通	しをもたせたりする。	<過去との比較>
	3	一人調べをする。	\bigcirc	調べてわかったことと身	見通したこととを比
展	4	話合い活動をとおして理解を深	較	・検討させる。	<過去との比較>
開	める。		\circ	友達と自分の考えを比較	交して話し合わせ、
			自	分の考えを深めさせる。	<他者との比較>
終末	5	学習したことをまとめる。	\bigcirc	本時学習でわかったこと	こについて、前時ま
			で	に獲得した価値との比較	交を通して、新しい
			価	i値を見出させる。	<過去との比較>

(2) 発表の仕方を育成する

次のような発表の仕方を子どもたちに身に付けさせることで、他者との比較や過去との 比較が可能になると考える。さらに、比較する発言を意識させることで"聞く"というス キルの育成にもつながると考える。

《基本》	《友達と比べる》	《これまでの学習と比べる》
・書いていることは必ず	○○さんと同じで	前の時間は△△だったけど、
途中まででも	○○さんとちがって	今日は□□です。
手をまっすぐ挙げる	・〇〇さんとにていて	・今まで、○○と思っていたけ
・同じことでもくり返す	(どこがどのように似ているか	ど、今日の学習で、△△とい
・間違いは「宝」である	を言えたらスゴイ!)	うことがわかりました。
・ためになる意見には拍手	○○さんに付け加えて	
・理由をはっきり		
・困ったら友達のまねをする		

(3) 既習事項と「比較する」ための掲示物等の工夫

児童生徒が学習の過程をいつでも振り返ることができるように、学習の過程をまとめた 掲示物を作成したり、比較するという活動が行いやすいようなノートの書き方を指導した

りする。それにより、学 習の各段階(導入・展開 ・終末)で、既習事項と 比較して考えることがで き、本時学習の手がかり を得ることができると考 える。





【資料3 比較するための掲示物やノート】

VII 指導の実際と考察

- 1「豊かな表現力」の高まりについて
- (1) 実践例1(小学校第3学年算数科「かけ算の筆算①」)

自力解決後の交流場面の様子

T: 教師 C·S: 児童・生徒

問題 4 3 C1:(図を指しながら) はじめに、 6×3 をして 18 になります。ここまでは いいですか?

C2: 意見があります。私は、図で考える時は、上から計算すると前の時間に学習 したので、3×6をした方がいいと思います。

T: どうして、 3×6 と計算するのですか?

C2:3 本の数え棒が 6 つ分ということになるので、 3×6 と した方がいいと思います。

C1: 言い直します。 3 × 6 をして、18 になり、十の位にばらの 10 を束にして繰り上げます。次に、十の位は 40 が 6 つ分なので、 40×6 で 240 になります。その中での 200 を百の位に繰り上げます。ここまではいいですか?

【資料 4】発表に対して意見を 述べる子どもたち

C:はい。

C1: 最後に 18 + 240 をして、258 になります。みなさんどうですか?

C:わかりました。同じです。

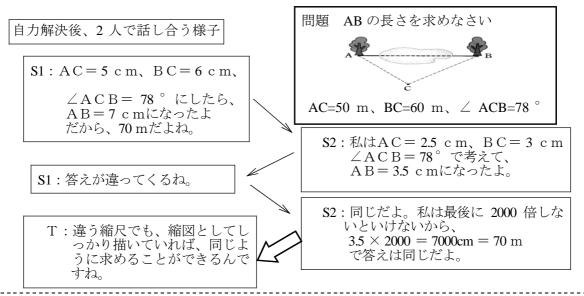
C3: C1 さんに付け加えて、始めに、43を40と3に分けて考え始めます。後は同じで・・・

《考察》 話合いの場は、自己解決したことを"紹介"し、"教師が助言する"という形に 陥りやすく、子どもたち同士による話合いによっての深まりが感じられないことが多い。し かし、1 人の解決方法の発表に対して、質問や意見を述べる場を設定したところ、波線のよ うに、自分が考えたことを基に、他者の考えに対して意見を言い、また、発表者が訂正する といった学習が見られるようになった。

また、これまで、発言することが苦手だった児童にとっても、「違い」を見つけ発言する ことは、興味をもって取り組むことができる活動である。単に、「意見を言いましょう」と いう教師の指示と、「自分の考えと少しでも違うところや同じところを言いましょう」とい う、「比較する」ということを意識した発問をするだけで、子ども同士の話合いに深まりが! **!**見られるようになった。

他者と「比較する」場を設定した授業を積み重ね、他者と比べた発表の仕方を定着させた ことで、子どもたちは、表現への意欲を高め、考えを深め、豊かな表現を可能にした。

(2) 実践例2 (中学校第3学年数学科「図形と相似」)より



《考察》図の長さが友達と違うことから、間違っているのではないかという不安をもつ生徒 もいたが、違いが生じる理由を突き詰めて考えさせていくことで、縮尺の違いに気づくこと ができ、考えが深まっていた。

また、多様な考え方を「比較」し、違いの根拠を明らかにする場を設定したことで、生徒が、ただ自分の考えを相手に伝えるだけではなく、相手の考えを取り入れて考えることができ、学習に深まりが出ていた。

(3) 実践例3 (小学校第3学年学級活動「朝のスピーチ」)

大東小学校第 3 学年 1 組では、「豊かな表現力」を育成するために、朝の会でのスピーチで 以下のような取り組みを行っている。

- ① 1~2分間の日記や作文などのスピーチを聞く。
- ② スピーチ者に対し、内容を詳しく知るための質問をする。
- ③ 「スピーチ者に対する意見・感想」「スピーチの内容に関する意見・感想・自分の体験との 比較」をカードに書き、発表する。その際、「○○さんとにていて」「○○さんに付け加えて」 など、発表のきまりにそって、発言する。友達と全く同じ意見や感想でも、繰り返し発表する。
- ④ スピーチ全体をとおしての感想を発表する。
- ⑤ スピーチや話し合ってきた内容に関して、さらにクラスで話し合いたいことを出し、発表し合う。
- ⑥ スピーチの時間の自己評価を行い、教師の話を聞く。

スピーチの内容について意見・感想・自分の体験を発言している様子

- (C1(児童)の「鹿児島の水族館に行った」という内容のスピーチに対して)
- C2: 私も C1 さんと同じように、鹿児島の水族館に行ったことがあります。
- C3: ぼくは、C1 さんたちとは違って、鹿児島の水族館には、行ったことがないけど、福岡の水族館だったら、行ったことがあります。

C4: 私も、C3 くんと同じで、福岡の水族館に行ったことがあります。そこで見たイルカのショーは、C1 さんの感想と同じように、迫力がありました。

C5: ぼくは、どこの水族館も行ったことがないので、みんなの話を聞いていて、とっても行きたくなりました。

《考察》 このスピーチを取り入れてからは、子どもたち同士で意見や考えをつなぐという 意識が、非常に高まった。また、勉強という枠にとらわれず、日常的な話題について「発表 のきまり」を活用しながら話し合うことで、自然に他者の考えと比較して発言することがで きるようになった。発言することに抵抗を感じる子どもも、「他者と発言したことと同じこ とでも発言してよい」という約束に安心感をもち、積極的な発言ができていた。

2「主体的な学び合い」の高まりについて

(1) 実践例4 (小学校第2学年国語科「ビーバーの大工事」)

(本時目標)順序に気をつけて、ビーバーがダムを作る様子を読み取ることができる。

導入(本時学習の見通しを立てる)場面

T: 調べ方はどうしますか。

C: 音読をしてサイドラインを引きます。

T: まとめ方はどうしますか。

C: 順序を書いて、工夫を説明します。

T: 答えを見つ<u>ける</u>ヒントは何ですか。

C: ビーバーのしたことだから、文のは じめや終わりを見ます。

C: 順序を表す言葉を見つけます。

C: 数字やたとえの言い方を探します。

C: 絵や写真を見ます。



【資料 5】前時までの学習の流れ を示した掲示物

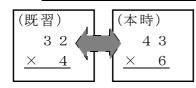
《考察》 既習事項が整理されている掲示物を手がかりに、前の学習を想起しながら、本時にどのような学習を、どのように行っていけばよいのか、児童が自ら見通しを立てる姿が見られた。この場合、想起させることで、子どもたちは、「前に〇〇というように学習を進めていったので、今日も同じように進めていくのであろう」という見通しを立てることができたのだと考える。

また、単元を通して「比較する」場を設定し、その学び方を繰り返すことが、子どもた ちが、十分な見通しを立てることを可能にしたのだと考える。

このことから、導入の段階において、過去と比較する場を設定し、その学び方を繰り返し指導したことは、「主体的な学び合い」の課題をつかむという部分を可能にした。

(2) 実践例5 (小学校第3学年算数科「かけ算の筆算①」)

導入において問題を見出し見通しを立てめあてをつくる場面



T:前の時間の学習と比べて、違うところや似ているところは ありますか。

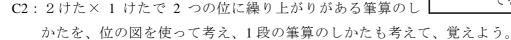
C:前の時間までは、一方の位にしか繰り上がりがなかったけど、

今日の問題は、一と十の位どちら にも繰り上がりがあります。

C: 今日も、繰り上がりのあるかけ算の筆算なので、位の図を 使うと考えやすいと思います。

T: めあてをつくりましょう。

C1:2つの位に繰り上がりがある2けた×1けたの筆算のし かたを、図を使って考え、説明しよう。





【資料 6】自分で考えためあ てを発表する子ども

《考察》 掲示した前時までの学習の流れやノートを見ながら、共通点や差異点を見つけ、 発言する児童が多かった。また、違いから見出した問題点、共通点から見通したことを基 「にして、本時追究するめあてを、ほとんどの児童が自分の言葉でつくりあげた。「比較す る」ということが、児童にとってわかりやすい活動であることや、それらを使っためあて ¦のつくり方を繰り返し指導してきたことにより、自分でめあてをつくることができた児竜¦ が増えたと考えられる。

(3) 実践例6 (小学校第3学年国語科「つな引きのお祭り」)

(本時の目標)真栄里の綱引きについて、書き方の工夫に気を付けながら正しく読み取ること ができる。

(本時の学習課題) なぜ神様とのつなひきは、西の方がほとんど勝つようになっているのだろ うか。

展開において課題解決していく場面(真栄里のつなひき)の一部

T:書き方や組み立てがどのように工夫されているのか、意見や理由を発表してください。

C1:30 ページの 13 行目の「ねがい」が書かれていると思います。理由は、「神様の世界から ゆたかな実りをもらいうけようというねがいがあったといわれているからです。」と書い てあるからです。みなさんどうですか?

<児童の付け加え>!C2: C1 さんの理由に付け加えて、東は神様! の世界で、つなを引く人が少なく、西の方 が多いんだから、人間の世界に神様の世界 から「ゆたかな実り」をもらい受けようと いう「ねがい」があるからだと思います。

<教師の切り返しの発問>

T:「ゆたかな実り」って何かな?

C:辞書で調べよう。(辞書で「ゆたか」「実り」を調べるがしっくりこない。)

T: (つな引きの写真を見せて) この綱は、何を使って作られていましたか?

C: 稲わら。C: わかった!お米だ。刈和野のときと同じだ。

T: このゆたかな実りをどうするのかな? (黒板に図を示しながら)

C:人間の世界に引きよせる。

T: 引きよせてからどうするの?

C: 奪い取る。(えーっ!?もらうんだよ。)

C: もらい受ける。

T:「もらう」と「もらい受ける」ってどう違うのかな?

<言葉にこだわって意見を付け加える児童の発言>

C1:「もらう」はただもらうだけで、もらい受けるは…えっと…忘れました。

C2: K くんに付け加えて、「もらう」は普通にもらうだけだけど、「もらい受ける」は気持ちをこめてもらう。

T: お米をプレゼントみたいにもらい受けるっていうことかな?

C3: 神様から何かをもらうのではなくて、空気みたいな何もないのをもらうんだと思います。

C4: C3 くんに付け加えて、賞品みたいにもらうとかじゃなくて、みんなに与えられるようなものをもらうということだと思います。

T: 刈和野のつなひきのねがいとくらべてどうかな?

C: 米がよくとれるように、というねがいとにている。

《考察》この学習では、他者との比較を意識したハンドサインや話型を子どもたちが身に付け、意識して学習を行ったことで、友達の発言の細かなところまで聞くという姿が見られた。 ちょっとした言葉のニュアンスも聞き逃さず、それについて考えていた。言葉の一つ一つに こだわりをもち、読んだり、話し合ったりしていく姿は、まさに、「主体的な学び」であり、 ものの見方や考え方がより深まることにつながると考える。

(4) 実践例7(小学校第6学年 総合的な学習の時間「こんにちは!大先輩」)

終末において、本時学習をまとめる場面

T: 今日は神村和子さんの活動について調べましたね。調べた感想を書きましょう。その時に、 調べる前の自分と調べた後の自分と比べて、新しくわかったことを書きましょう。

<児童の感想>

○ 私は店とかでリングプルを集めている箱を見て、いつも何に使うのかなあと思っていました。でも今日わかりました。一人でされていると聞いた後、私たちもリングプルのせん別をしました。数も数えないといけないのでたいへんでした。グループでやったけど神村さんは、どうして一人でできるのかと思いました。世の中に、見えないところで人のためにこんなことをしている人がいることがわかり、協力しようと思いました。

《考察》学習したことをまとめるという作業は児童にとって難しいことである。しかし、ここでも、既習や過去の自分と比較しながら本時学習を振り返らせることで、新たにわかったこと、できるようになったことを、自分で認識して価値付け、まとめることができた児童が多くいた。「主体的な学び合い」の中の価値付けるという部分を可能にしたといえる。



【資料 7】友達の意見にハンドサ インで意見をつなぐ子 どもたち

VII 成果と課題

1 成果

- 「比較する」ことを意識して取り入れた学習指導を行うことによって、何を考えればよい のかが明確になり、積極的に話し合ったり自分の意見を書いたりするなど、主体的に学び合 う姿が見られるようになった。
- 比較するための手立てとなる発表の仕方を指導したことで、他者の意見を取り入れる必要性を感じ、他者の意見を真剣に聞こうとする子どもが増えた。そして、それを自分の考えと 関連させて話すことで「豊かな表現」につながる学び方ができるようになった。
- 学習の振り返りが可能な掲示物を作成することで、既習事項を問題解決の手がかりにして 本時学習について自分の力で考えようとする子どもの姿が見られるようになった。

2 課題

- 子どもがより主体的に学び合うことができるように、比較する内容と場を精選する必要がある。
- 既習との比較を更に主体的なものにするために、掲示物の工夫だけでなく、ノート指導の 工夫についても今後、研究を深めていく必要がある。
- 子どもの発達段階に応じて、グループ学習やペア学習など、子どもたちが話し合いやすい 学習形態を工夫し、自然な流れで問題解決ができるような学び合いの仕方を追究していく必 要がある。

参考文献

- · 小学校学習指導要領 (平成20年3月告示) 文部科学省
- ·中学校学習指導要領(平成20年3月告示) 文部科学省

一研究同人一

串間市教育研究所

岩下 憲治(串間市教育長) 事務局 牧野 准郎 (教育委員会事務局長) 所 長 達己 (教育事務局次長) 指導員 川﨑 伸幸(主任指導主事) 百野 かおり(市木中学校教頭) 研究員 白井 増田 仁 (教育総務係長)

研究員 森﨑 彰浩(福島小学校) 川田 梨加(本城小学校) 中西 貴嗣(有明小学校) 坂本 結香(福島中学校) 河野 和寿(大東小学校) 合田 りえ(本城中学校)

串間市教育研究所

I	研究主題		5 – 1
Π	主題設定の理由		5 – 1
Ш	研究目標		5 – 1
IV	研究仮説		5 — 1
V	研究構想		5 - 2
VI	一研究内容		
	1 主題の意味		5 - 2
	(1)「豊かな表現	現力」とは	
	(2)「主体的な学	学び合い」とは	
	2 『「比較する」	」ことを取り入れた学習指導』(副主題)についての基本的な君	きえ方
			5 - 3
	(1)『「比較する」	」ことを取り入れた学習指導』に取り組む意味	
	(2)『「比較する」	」ことを取り入れた学習指導』をつくるための視点	
	3 よりよく「比重	蛟する」ための指導の工夫	5 - 4
	(1)「比較する」	場を授業の中に設定する	
	(2)発表の仕方を	を育成する	
	(3) 既習事項と	「比較する」ための掲示物等の工夫	
VII	[指導の実際と考察	· 京	
	1「豊かな表現力」	の高まりについて	
	(1) 実践例1 (ノ	小学校第3学年算数科「かけ算の筆算①」)	5 - 5
	(2) 実践例2(中学校第3学年数学科「図形と相似」)	5 - 6
	(3) 実践例3(/	小学校第3学年学級活動「朝のスピーチ」)	5 - 6
	2「主体的な学びで	合い」の高まりについて	
	(1) 実践例4 (ノ	小学校第2学年国語科「ビーバーの大工事」)	5 - 7
	(2) 実践例5 (/	小学校第3学年算数科「かけ算の筆算①」)	5 - 7
	(3) 実践例6 (/	小学校第3学年国語科「つな引きのお祭り」)	5 - 8
	(4) 実践例7(/	小学校第6学年総合的な学習の時間「こんにちは!大先輩」)	5 - 9
VIII	[成果と課題		5 - 9 $5 - 10$
	○ 参考文献		
	〇 研究同人		